

## 溶連菌感染症（溶血性レンサ球菌咽頭炎）

- ① A群β溶血性連鎖球菌という細菌がのどに感染して、咽頭炎や扁桃炎、それに小さく紅い発疹を伴う猩紅熱といった病気を引き起こすことがある急性感染症です。
- ② 感染すると2～5日で、発熱、のどの痛みが始まり、体や手足に発疹があらわれ、舌にブツブツ（イチゴ舌）を来します。
- ③ 医師の診断を受けて、処方された抗生物質をきちんと飲み始めると、2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいでできます。
- ④ 有効な抗生物質をきちんと飲むことが大切です。  
水分をしっかりととり、温かくして、ゆっくりと休みましょう。
- ⑤ 熱が下がっても溶連菌は残っていれば再発の恐れがあります。溶連菌を完全に退治するため、抗生物質を7～10日間飲むことが重要です。
- ⑥ 溶連菌感染症にかかった人のせきやくしゃみ、つばなどのしぶきによって感染します（飛まつ感染）。あるいは排出された細菌が手などを介し、口に入ることによって感染することもあります（経口感染）。
- ⑦ 保育園・幼稚園や学校などでの集団感染に注意する必要がありますので、家に帰ってきたら、手洗い・うがいを徹底しましょう。
- ⑧ 目黒区の保育園・学校では判断がついて、抗生剤内服後24時間以上経過し、発熱がなくなり、通常の食事がとれるようになるまで登園・登校を控えることになっています。